

2020年5月22日

パルシステム東京様「平和カンパ2019年度 年次活動報告書」

生活協同組合パルシステム東京様の平和カンパにより、昨年に引き続き、タイ・ミャンマー(ビルマ)国境沿いにあるメラ難民キャンプ第1図書館、第5図書館でのノンフォーマル教育事業を支援することができました。難民の心に寄り添うコミュニティ図書館へのご支援を、誠にありがとうございました。

●事業概要●

事業対象地：タイ国境 7カ所のミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

事業名：ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業

対象者：2019年度図書館利用者 延べ26,455人（第1図書館） 延べ13,410人（第5図書館）



●難民キャンプを取り巻く現状●



<メラ難民キャンプの様子>

タイ国境にある9カ所のミャンマー（ビルマ）難民キャンプには、現在約9万3千人が暮らしています。2012年にミャンマー政府とカレン民族同盟は停戦合意をし、これを受けて難民の帰還に向けた動きが始まっています。

2016年からタイ政府・ミャンマー政府の合意の下での帰還プログラムが開始となり、2019年7月までに合計4回実施され、約1,040人がミャンマー側へ帰還しました。しかし、5回目の帰還の時期は未だ決まっていません。

また、帰還を希望している住民は多くありません。帰還地が本当に安全なのか、帰還後に仕事はあるのか、といったことに不安を抱えつつ、難民のままで居続けたくないという思いと板挟みになっています。更に難民キャンプ内への支援は年々減少し、国際NGOの事業縮小、事業撤退が続き、将来のキャンプでの暮らしにも不安を持つ人が増えています。見えない将来への不安を取り除き、住民全員が尊

手を、とりあうこと。

厳を持って帰還する日まで、継続した支援が必要です。

●事業目標と実施した活動●

事業目標
カレン難民委員会教育部会との協働により、コミュニティ図書館活動を通して難民キャンプの住民が将来の選択をするための知識・技術と帰還に関する情報を習得する。
活動内容
<p>タイ国境にある9カ所の難民キャンプの中で最も規模が大きいメラ難民キャンプには、2020年2月時点で34,748人が生活をしています。</p> <p>① <u>コミュニティ図書館活動</u></p> <p>子ども用の絵本や大人の情報収集のため、新聞、雑誌、学習参考書、小説などを図書館に配架しました。図書館では、図書の貸し出し以外に、子ども達に向けた読み聞かせ、歌、ゲーム、塗り絵、折り紙など様々な活動を実施しています。</p> <p>② <u>定例会議の実施</u></p> <p>図書館関係者が集まり、年に5回（1月、3月、6月、9月、12月）の会議を図書館で実施しました。参加者は、難民キャンプ教育部会、難民キャンプ図書館委員会、教育部会の図書館担当、図書館員、学校教員、青年ボランティアなどです。メラ難民キャンプでは、各月約25人の参加があり、活動の進捗を共有し、何か課題が出た場合は参加者で解決策の協議を行いました。</p> <p>③ <u>情報提供活動</u></p> <p>パソコンと図書館の前に設置している情報掲示板を通して、ミャンマー国内や帰還に関する最新情報や新着図書について発信しています。図書館でも帰還に向けた必要な情報が得られるよう、キャンプ内の他団体などからも情報を提供してもらいました。メラ難民キャンプでは第1図書館、第5図書館に2台ずつパソコンを設置しており、年間で延べ1,359人が利用しました。</p> <p>④ <u>学校への移動図書箱活動</u></p> <p>メラ難民キャンプ内のすべての学校、寄宿舎、国際NGOの事務所などを対象に、移動図書箱活動を実施しています。学校での授業の活用などを目的に、保育所、小・中・高等学校、障がい児特別学校の教員や学生が、図書館の蔵書から本を選定し、長期間借りています。</p>

ヘイ・タ・ゲイさん（11歳 メラ難民キャンプ図書館利用者）



私の名前は、ヘイ・タ・ゲイです。11人の大家族で、私は6番目の子どもです。家では、掃除をしたり水を運んだりして家事を手伝っています。時間があるときは、図書館に行ったり、他のNGOが主催している活動に参加したり、友達と遊んだりしています。

図書館へは、週に4回通っています。たくさんの種類の本を読みますが、特に、カレンの民話を読むことが好きです。また、図書館員の人からの読み聞かせや折り紙も、他

にはない活動で面白いです。私達は本から知識を得るだけでなく、様々な感情を教えてもらっていま

手を、とりあうこと。

す。支援してくださる日本の皆様に感謝しています。